

令和3年度 第1回西尾市地域自立支援協議会 会議録

日 時：令和3年6月25日(金) 午後2時～午後4時

場 所：西尾市役所 22AB会議室

欠席：木下委員、深見委員、鈴木委員、西三河南部西圏地域アドバイザー 大南氏

<参加者>

委 員：16名（西尾保健所は代理出席：西出）

部会長：糟谷地域支援部会長、藤田子ども部会長、福岡就労支援部会長、岡田権利擁護部会長

部会事務局：社会福祉協議会 岡田初美、岡田智子

相談支援センターあると 伊澤、松園

めだか工房 福井、岡本

福祉課：築瀬部長、酒井課長、杉浦課長補佐、柵木主任主査、山本主査、原田主査

合計 32名

1. あいさつ 築瀬部長

参集の礼。最近コロナ感染者が徐々に増えているような感じとなっている。締めれば少しは効果があるが、緊急事態宣言が長期化すると生活が苦しくなる。施設の利用者と接している方は特にご苦労をかけている。西尾市として感謝している。

令和3年3月に障害福祉計画、障害児福祉計画を策定した。自立支援協議会で福祉計画について議論していただき、単なる案としてではなく、着実に実現できるように、皆さんにご協力いただきたい。

2. 委嘱状交付

築瀬部長より、委員の代表として藤田委員に委嘱状を交付

3. 自己紹介

協議会出席者全員が自己紹介を行った。

4. 会長・副会長選出

会長と副会長ともに立候補、推薦がなかったため、事務局（案）を提示した。

会長には芳賀幸彦委員を、副会長には磯貝総一郎委員を事務局（案）として提示し、承認した。

<挨拶：芳賀会長>

自立支援協議会ができて10年以上経つ。組織としてしっかりとしており、組織図もできている。10年以上経つと、形骸化しているところもある。何が市や障害者にとって必要かを1度考えていきたい。

<挨拶：磯貝副会長>

自立支援協議会という制度、組織があって、いろんな人の意見を障害者福祉に反映できていると思う。まだ、様々な課題もあると思うので、皆さまからの知恵をお借りしてやっていきたいと思う。

(ここで、新規で委員に就任された方のため、自立支援協議会についての説明。)

5. 議 題 会議の取り回し：芳賀会長

- (1) 令和2年度相談支援事業実績について 説明：山本主査、社会福祉協議会 岡田初美、相談支援センターあると 伊澤、めだか工房 福井

<質問：藤田委員>

Q. 相談の対応している職員数は何人か。

A. 社協…3人、あると…6人、めだか工房…4人

Q. 相談してよかった、支援してよかったという事例があれば教えてください。

A. 福祉サービスの説明をし、寄り添うことにより、その方の生活が安定した。

本人が外に出て活動ができるようになった。介護者の負担が減り、本人も楽しい時間が持てるようになった。親が家の事、家族の事の話聞いてほしいという希望に応えた時に感謝された。精神障害で長期入院していた人が退院した時。家族だけ、身内だけと孤立していた時に相談して世界が広がったかなと感じた時。

<質問：田中委員>

Q. 関係機関との連携が増えてきたのはなぜか。連携についての問題点(課題点)はあるか。

A. (社協) 少しずつ相談支援専門員が認識されてきて、研修も定期的に行われるようになって、スキルアップ、ケースの積み上げができるようになってきた。相談支援専門員だけでなく、関係機関とチームとなって解決していこうという意識が出てきた。

(あると) 市内に連携できる機関が増えてきた。顔が見える関係づくりの構築を心掛けている。

(めだか) 高次脳機能障害の方の対応のノウハウが無い。市内に支援機関が少なく、市外のサービスを受ける場合、情報の連携がまだまだと感じる。

Q. 就労支援について身体障害者、知的障害者の相談数が少ないがなぜか。

(社協)身体障害者について、医者(病院)と就労先との連携も必要になってきているが、身体障害者は重度な方が多いので一般就労につながりにくいところがある。

(あると)知的障害者からは福祉サービスの相談を使つての就労相談は多いが、一般就労の相談は少ない。就労相談があれば、同一法人内にある就労移行支援事業所と連携をして対応することもある。

(めだか)相談件数が多くなってきている。制度の枠の中だけでは難しい。そのような方の支援を今後どのようにしていくか課題。

委員全員からの拍手があり承認。

(2) 令和2年度地域活動支援センター事業実績について 説明:めだか工房 福井

<質問:杉田委員>

Q. 創作活動の廃油石鹼づくりの個人への分配金はどうなっているのか。

A. 分配金として個人には還元していない。了解を得た上でレクリエーションの費用に還元している(参加費で不足する分)。

委員全員からの拍手があり承認。

(3) 令和2年度担当者部会実績及び令和3年度担当者部会活動方針について

説明:各部会長

<質問:小嶋委員>

Q. 西尾市の障がい児施策に関する提案書(子ども部会)の医療型児童発達支援の事業量見込み…①と障がい児通所給付等の利用状況と利用意向のギャップ…②の医療型児童発達支援の数値について

A. ①については第1期西尾市障がい児福祉計画の数値で②は実施したアンケートの数値で出典は別のもの。②の表の右端の数値が大きいほど、利用意向と利用実績とのギャップがあるといふことがわかる。

委員全員からの拍手があり承認。

(4) 令和2年度相談支援事業所連絡会実績及び令和3年度相談支援事業所連絡会活動方針 説

明:山本主査

委員全員からの拍手があり承認。

(5) 令和3年度地域自立支援協議会体制について 説明:原田主査

委員全員からの拍手があり承認。

(6) 第5期障害者福祉計画(令和2年度障害福祉サービス評価)・第1期障害児福祉計画(令和2年度障害児通所支援事業評価)について 説明: 杉浦課長補佐

<小嶋委員>

Q. 居宅介護の実績が少ないのはなぜか。

A. 理由は推測だが、高齢に伴い介護保険に移行した、サービスの移行でヘルパー利用者が生活介護に移行されたことが考えられる。

Q. 第6期障害者福祉計画(令和3年度策定)の居宅介護の見込み量が少ないのはなぜか。

A. 過去3年の実績に基づいて算出している。減らないように努力する。

委員全員からの拍手があり承認。

(7) その他

特に無し

(事務局 原田主査)

第2回の会議は、10月15日を予定している。正式に決定次第、案内をさせていただく。

会議終了